

PART 7 15 世界の潮流

中国の粵港澳大湾区発展計画とフィンテック④

国際社会経済研究所 (NECグループ) 主幹研究員

大平 公一郎



地域全体で推進

シスコ、東京と並ぶベイエリアの形成を目指している。

らず対象地域全体で進めることを狙っている。

計画の中核となる深

圳は中国のシリコンバ

レーとも呼ばれ、IC

Tを中心としたイノベ

ーション都市として名

をはせるが、計画では

新しい技術の利用や開

発、活発な起業といっ

た流れを深圳にとどま

る。すでに香港・マ

カオ間は全長55キロの

港間は高速鉄道によっ

て1時間以内で移動で

きる。また深圳と対岸

の中山を結ぶ深中通道

ではなく、例えば香港

の金融、マカオの観

光、深圳のICTなど

各都市が強みを持つ産

業を軸とし、新しい技

や国家双創モデル基地

などさまざまな施設が

配置される予定だ。

域内での人やモノの

自由な移動を促進する

ために、高速鉄道や高

速道路の整備も進んで

いる。また香港・マ

カオ間は全長55キロの

港間は高速鉄道によっ

て1時間以内で移動で

きる。また深圳と対岸

の中山を結ぶ深中通道

ではなく、例えば香港

の金融、マカオの観

光、深圳のICTなど

各都市が強みを持つ産

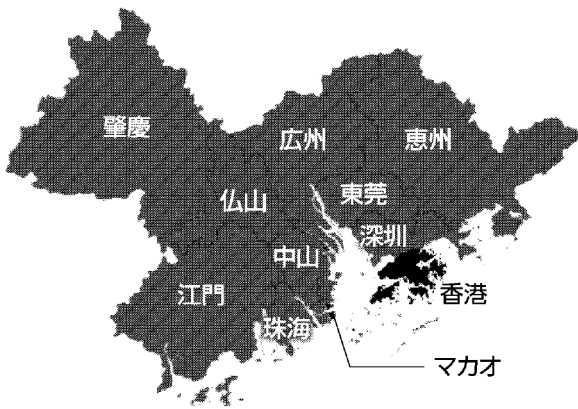
業を軸とし、新しい技

術の導入などで活性化

を狙う。香港の大学・

研究機関の研究成果を

粵港澳大湾区発展計画の対象地域



なども建設している。制度面でも、本土出身者以外の高い能力を持つハイエンド人材への所得税減税、広東省政府による香港・マカオの人材の雇用増加、通関手続きの迅速化、高等教育機関の連携といった施策により、域内における人の交流の活性化を図っている。目下の最大の課題は、香港の「逃亡犯条約」改正をめぐるデモとなるほか、広東・香港・マカオの司法交流なども進められる。

各都市を活性化

一方、計画は各都市の均一化を目指すものではなく、例えば香港の金融、マカオの観光、深圳のICTなど各都市が強みを持つ産

(金曜日掲載)

GDP 1.6兆ドルの経済圏形成

中国南部に位置する、香港・マカオの、広州や深圳など広東省の主要都市と、香

港、マカオは距離も近く、ビジネス面でも深い関わりを持ち、中国経済の発展に重要な役割を果たしてきた。2019年2月に発表された「粵港澳大湾区発展計画」は、習近平国家主席が主導する重要なプロジェクトである